

横浜市立いずみ野中学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
校訓「心身の健康」「創造的なとりくみ」「誠実な態度」 ～生命・自然を畏敬し、地域社会の中で人とともに成長する生徒を育てます 【知】自ら学び自ら考える生徒 【徳】自らを律し行動する生徒 【体】情操豊かで心身ともに健康な生徒 【公】他者を愛し地域社会に貢献する生徒 【開】多様性を尊重し多角的に物事を判断する生徒 a3	○自ら学び、考え、行動する力 ○自尊感情を高め、自信を持って生きていく力 ○心身共に健康で、たくましく生きる力 ○多様性を尊重し、進んで人と関われる力

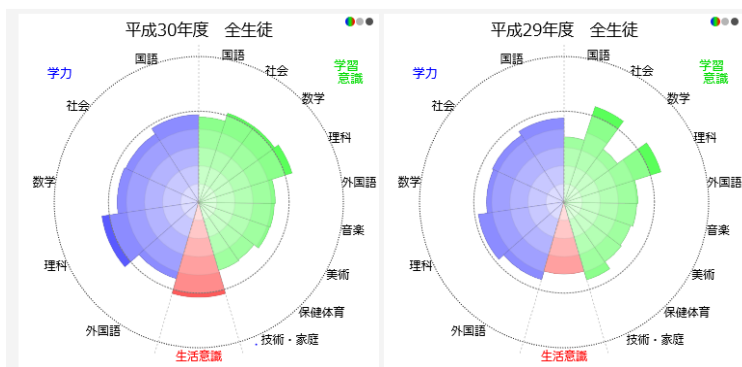
(2) 中期取組目標

中期取組目標
○チームいずみ野として、生徒・職員共に一人ひとりを大切にする学校を目指します。 ・個に応じた指導を充実すると共に、わかる授業の実践を目指します。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、自他を認め、安心して楽しい学校生活を目指します。 ・基本的な生活習慣を身に付け、健康な心身を常に心掛ける生徒を育成します。 ・コミュニケーションを大切にし、多様性を認め、自ら行動できる生徒を育成します。 ・キャリア教育を充実させ、地域社会に貢献出来る力を育てます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「わかる授業」を目指して基礎・基本の充実を図り、生徒が主体的に取り組む授業研究、研究授業を行う。②アクティブラーニングやグループワークを積極的に取り入れ、コミュニケーション力を高める指導法の工夫をする。
担当	学習指導部

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析
 全教科とも学力層に着目すると、市の平均に比べ、BC層の割合が少なく、学力層の広がりが見られる。

さらに学力D層について分析すると、次の3つの点で本校の特徴が見えてくる。

①ある教科の学力D層の生徒が、他教科の学力D層である割合が平均

均で10ポイント以上、横浜市の平均を上回る。特に国語・数学・英語の3教科に関して学力D層は同じ生徒である傾向が強い。

②『授業がよくわかる』と答えた生徒の中でのD層の割合はどの教科も市の平均より10ポイント以上多く、学力D層で『授業がほとんどわからない』と答える生徒はほとんどいない。

③『1日に3時間以上携帯電話・スマートフォンを見ている生徒の中で学力D層の割合は、どの教科も市の平均より10%近く多い。

本校の学力D層は、授業内容はある程度理解しているが基礎の定着が弱いことがよくわかる。『わかる授業』への取り組みを継続していくとともに、授業で学習した内容の反復練習や家庭学習での復習につながる自ら学び行動する姿勢を確立していきたい。

「勉強が好き」と答える生徒の中で、学力A層の割合は市の平均より20ポイント以上多く、約1/4の生徒が「1日3時間以上勉強する」と答えた。また、約36%生徒が「一日30分以下」または「全くしない」と答えていて、学力D層では45%を超える。学力層と学習時間には相関関係が顕著にみられ、格差を是正するために、今後も引き続き家庭での繰り返しの学習習慣を身につけさせる必要がある。家庭学習の定着化をはかり、課題の出し方、提出後の活用等の工夫など、家庭との連携を図りながら、教員一人ひとりの「分かる授業」づくりが求められる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：話す・聞く能力と読む能力の向上が課題である。
- 社会科：資料活用の技能、社会的な思考・判断・表現が課題である。
- 数学科：学力層が2極化しているので、CD層に復習を中心とした反復練習による基礎基本事項を定着させていくとともにAB層に応用力をつける授業を行うことが課題である。
- 理科：実生活と関連付けて興味・関心を持たせ、学力の向上を図ることが課題である。
- 外国語科：表現力（特に、状況を判断したり、情報を活用したりしながら文と文の繋がりを注意して適切に英文を書く力）を身につけさせることが課題である。

3 令和元年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
国語	対話し学び合いながら基礎基本を定着させ、自らの考えを深める力	課題に対して対話しながら、解決していく言語活動を意図的に位置づける。基礎基本の反復学習を行う。	
社会	主体的に社会参画する姿勢	ICT機器や映像資料を活用し、社会科に関する関心を高める授業を工夫する。 他者と協働し、課題解決を図りやすい授業展開を工夫する。	
数学	繰り返し学習する力	基礎的な計算の演習時間の確保や小テストの実施	
理科	自然の事物にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、観察・実験より科学的に探究する力	観察・実験の基本的な技能を身に着けさせる。 観察・実験を行い、科学的に探究していく力を養う。	
音楽	伝え合うことで自分の考えを深化させる力	生徒同士が歌唱や器楽演奏の表現の工夫についてお互いに意見交換をする場を設定し、より良い表現を目指すことができる授業展開を図る。	
美術	自分らしさを発揮しようとする姿勢	生徒が自分で感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し豊かに発想したり創意工夫し美しく描いたりつくったりすることで表現できる授業を展開する。	
保体	自己肯定感	生徒が学習の見通しをもち、自らの課題を発見し、課題解決を図る取り組みを通して、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。	
技・家	課題解決する力	作品製作を通して、教えあえる環境を設定し、協働して課題解決できる活動を設定する。	

外国語	伝え合うことで自分の考えを深化させる力	コミュニケーションを行う場面や状況を設定し、生徒が主体的に表現し伝え合う言語活動を多く取り入れた授業を展開する。	
道徳	問題解決の力	問題解決に向け物事を多面的、多角的にとらえ、話し合い活動などを通して視野を広めながら問題を解決する力をつけていく。	
特活	学校生活へ参画する姿勢	所属する集団やより良い学校生活を送るための課題を見だし、解決に向けて話し合い、合意形成などを図る場を設定したりする活動を設ける。	
総合	他者を大切にし地域社会に貢献できる力	探究的な学習を通して、主体的・協働的な取り組みができる内容を展開する。	

個別級	将来の自立と社会参加の基礎的知識・技能・態度	個別の指導計画をもとに生徒の発達段階や指導目標を明確にする。また、自立と社会参加に向けてのあらゆる課題や場面を設ける。	
------------	------------------------	---	--